

Capo. 0 オープンG

Capo. 0 1-マールG

秋の心は愁と読むけれど

風が袖口 滑り落ちてく

その冷たさに触れるたびに

ふいに誰かの手の温もりを

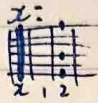
思い出しては目を閉じる

一つ一つ 灯る 街灯

胸の奥の空

名前呼ぶほど 強くなっている

ただ そばにいてほしい



秋の心は愁と読むけれど

夕暮れの色 濃くなった頃

人恋しさが宿ってくる

遠く聞こえる 電車の音が

夜に向かって 伸びてゆく

その響きの中 探してしう

帰ってくるはずのない足音

秋の空気は 寄り添ってくる

寂しい隠そうとするたび

そに気付ければ 離れている

肩越しの誰かの笑い声

人恋しきは 孤独の影が

伸びる時に やってくる